

前立腺がん検診の実施を

来年度以降の対応を検討



ふじもと いわよし 議員 藤本 岩義

年度は1位、平成28年度は4位となっている。

川村健康福祉課長

町では、厚生労働省の指針に基づき5項目の検診を行っているが、「前立腺がん」はその中にないので実施していない。少量の血液で早期発見ができ、治療につながるの

徳弘情報防災課長

電源遮断機は高知県の補助対象地域に本町は入っていないため単独助成は難しい。しかし、火元を減らし出火拡大の低減を図るには有効な手段であるので広報等で設置について普及啓発したい。

サイレントキラー（静かな殺し屋）と言われている「前立腺がん」は、全国推計値はがん罹患者で1位となっている。黒潮町ではどうか。全国では82%、県では67%の市町村が検診を行っている。住民の生活の質の向上を目指し特定健診に合わせ実施すべきではないか。また、県が実施している55歳の検診も積極的に進めるべきでは。

藤本住民課長

国保のデータでは、平成27

防災対策

電源遮断機の

設置を

補助事業なく

難しい

町の努力により津波対策

情報基盤整備

ラジオの

不感地解消を

早急に対応する

先の議会答弁で、本年度から設置予定となった公共Wi-Fiは、現在のWi-Fi回線を活用とのことだった。現在の回線は、土日や平日の夜間は

徳弘情報防災課長

飽和状態は確認している。今後データをとってWi-Fiも含め対応を考える。

大西町長

制度的な整理、現状の整理をして早急に対応する。NHKについては、まだ対応ができていない。

中高年に急増しているサイレントキラー

前立腺がん

にご注意を!

ご存じですか? 日本における男性がんの罹患者数(新しく発症するがん患者数)は、2015年には胃がん、肺がんを抜いて、はじめて前立腺がんが第1位となりました。



PSA検診を受ければ

PSA検診を受診
住民検診は50歳から
人間ドッグ検診は40歳から

前立腺がんは日本人男性で最も発症数の多いがん*。まったく自覚症状がないまま、転移がんへ進行する危険性があり、年間1万人以上の方が前立腺がんによって死亡しています。PSA検査は、早期がんを発見できる、腫瘍で癌の疑いが高い血液検査です。

わずか1mlの採血で前立腺がんは早期発見でき、がん死のリスクが低くはります。

- 1 PSA検査を受けることで、転移がんに進行する危険や前立腺がんに死に至る危険が減ることが、質の高い研究で証明されています。
- 2 PSA検査は住民検診(50歳)の間から受診が可能です*。人間ドッグでは高齢からの受診が主となります。転移がんが、転移がん検出率が高くなる。一般の医療機関でもPSA検査が受けられます。*家業(特)に(50)に前立腺がんの方(1)は、癌の危険性が低く、50歳から40歳からの検診が受けられます。
- 3 PSA検査が異常値の場合は、がんの確定診断には前立腺生検が必要になります。PSA検査では、治療の必要がないと見なされがんが見つかる。
- 4 前立腺がんやPSA検査について詳しくしことを知りたい方は、かかりつけ医や泌尿器科の専門医に相談することをお勧めします。泌尿器科のHPでも、詳しく説明が受けられます。

公益財団法人前立腺研究財団

http://www.jpcc.or.jp/

※ 公益財団法人日本医師会 一財団法人日本泌尿器科学会